

平成23年行政事業レビューシート

(外務省)

事業名	日・アフリカ経済・資源フォーラム	担当部局庁	中東アフリカ局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度	担当課室	アフリカ第一課	課長 赤松 武				
会計区分	一般会計	施策名	I-6 アフリカ地域外交					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第2項	関係する計画、通知等	—					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	日本としてどのような戦略を持ってアフリカとの経済関係を強化し、資源を確保していくのかについて、内外の政府関係者、学者、企業経営者、ジャーナリスト等をパネリストや講演者として招いてシンポジウムを開催し、議論する。これを通じて、我が国の対アフリカ外交の政策の議論を深めるとともに、人的ネットワークを構築し、官民双方のレベルで協力関係強化を目指す。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	アフリカは、新しいマーケットとして台頭しつつあり、石油・レアメタル等の資源供給地として中国をはじめ世界中の注目を集めている。このような中で、日本としてどのような戦略を持ってアフリカとの経済関係を強化し、資源を確保するかは、今後の我が国の対アフリカ外交を考えるにあたって、最重要課題の一つ。本件シンポジウムでは、国内外の関係者を招き、講演やパネル・ディスカッションを実施し、当該テーマについて掘り下げた議論を行い、また、シンポジウム終了後、レセプションを開催する。このような機会を通じて、ありうべき政策の議論を深めるとともに、招聘者や参加者間の人的ネットワークを構築し、官民双方のレベルで協力関係を強化する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	—	—	—	—		
		繰越し等	—	—	—	—		
		計	—	—	—	10	0.5	
	執行額		—	—	—			
	執行率(%)		—	—	—			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	【成果目標】 54ヶ国10億人というアフリカ巨大市場の開拓		成果実績	人	—	—	—	170
	【成果実績】 来場者数		達成度	%	—	—	—	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	フォーラム開催数		活動実績 (当初見込み)	回	—	—	—	—
					(—)			
					(1)			
単位当たりコスト	10 (百万円/1回)		算出根拠	予算額 10百万円 開催回数(見込み) 1回 ÷				
平成23年度 (単位:千円) 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	委託費	9,703	517	事業について精査した結果、一部事業の縮小				
	計	9,703	517					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	アフリカ各国の投資環境や成長性及び日本側のニーズ、考え等につき、内外の政府関係者、学者、企業経営者、ジャーナリスト等をパネリストとして招いて意見交換を行う場を提供する。また、シンポジウム終了後にはレセプションも併せ開催する。		
予算監視・効率化チームの所見			
		事業について精査した結果、一部事業の縮小	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※平成22年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
（「資金の流れ」
においてブロッ
クごとに最大の
金額が支出され
ている者につい
て記載する。費
目と使途の双方
で実情が分かる
ように記載）

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	中東諸国における周年記念事業	担当部局庁	中東アフリカ局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度開始 ・平成24年度終了	担当課室	中東第一課	課長 長岡 寛介				
会計区分	一般会計	施策名	I-5 中東地域外交					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第1項ハ・ニ、第2項 外務省組織令第59条	関係する計画、通知等	—					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	①イスラエル 2012年1月～12月の間、日本とイスラエルとの外交樹立60周年の節目を記念して、外務省周年A事業「2012年日イスラエル外交樹立60周年記念事業」を開催し、日本及びイスラエル双方において年間を通じて、両国間の交流事業を展開する。 ②アルジェリア 我が国とアルジェリア間の外交関係樹立50周年を記念して、2012年(1月～12月)に外務省周年B事業「日アルジェリア外交関係樹立50周年記念事業」を実施し我が国及びアルジェリアにおいて文化等様々な分野における交流事業を行う。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	「日・イスラエル外交樹立60周年記念事業」及び「日・アルジェリア外交関係樹立50周年記念事業」におけるオープニング式典等には大規模な派遣団の出席が想定されるため、主管課として各種調整を行う。またオープニング式典等は我が国に対する理解を深める最大の機会であり対日広報上の効果は極めて高いと思慮されるところ、新聞等において広告を行う。							
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	—	—	—	6	6	
		繰越し等	—	—	—	—		
		計	—	—	—	6	6	
	執行額		—	—	—			
	執行率(%)		—	—	—			
	成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度
オープニング式や各種文化事業等により、我が国に対する理解を深める。 オープニング式典に来場者数		成果実績	人	—	—	—	300	
		達成度	%	—	—	—		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	オープニング式典を含めた文化事業数		活動実績 (当初見込み)	事業	—	—	—	— (6)
単位当たりコスト	978 (千円/事業)		算出根拠	平成23年度予算額/文化事業数(見込み)				
平成23年度 (単位:千円) 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	外部委託	791	747					
	その他	5,078	4,955					
	計	5,869	5,702					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	－	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	「2012年日イスラエル外交樹立60周年記念事業」及び「日アルジェリア外交関係樹立50周年記念事業」にて各種交流事業を行い、我が国に対する理解を深めること等を目標とし適切に執行を行っていく。		
予算監視・効率化チームの所見			
		－	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※平成22年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
（「資金の流れ」
においてブロッ
クごとに最大の
金額が支出され
ている者につい
て記載する。費
目と使途の双方
で実情が分かる
ように記載）

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

平成23年行政事業レビューシート（外務省）

事業名	パレスチナ国作り支援関係経費	担当部局庁	中東アフリカ局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度開始 ・未定	担当課室	中東第一課	課長 長岡 寛介				
会計区分	一般会計	施策名	I-5 中東地域外交					
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	外務省設置法第4条第1項ハ、第2・3項 外務省組織令第59条	関係する計画、 通知等	—					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)	中東和平の実現のためには、イスラエル・パレスチナの平和的共存・共栄に向けた二国家解決の実現が鍵であり、そのためには、将来のパレスチナ国家樹立に向け、機能する統治機構・制度づくり及びパレスチナ経済の自立化を促進していくことが重要である。我が国は、平成22年2月のアッバース・パレスチナ自治政府大統領の訪日時に、鳩山総理とアッバース大統領の間で、自立可能なパレスチナ国家建設のため制度づくり、キャパシティビルディング支援及び民間部門間の交流強化を行っていくことを発表しており、これを具体化するもの。							
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	(1)平成22年度2月の日パレスチナ首相会談で発表された自立可能なパレスチナ国家のための支援を具体化するため、両政府のハイレベルによって協議を持ち、我が国の支援方針や具体的な協力案件について協議する。 (2)自立可能なパレスチナ経済の構築のためには、パレスチナの民間部門の育成が不可欠である。このため、我が国は、日・パレスチナの民間部門間の交流を拡充していくこととしている。他方、日本企業でパレスチナ自治区への積極的な進出を考えている企業は非常に限られており、この現実を打破するため、日本企業の幹部によるパレスチナ自治区の視察等を通じ、政府・民間ともにこの関係構築を図っていく必要がある。							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予 算 の 状 況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	—	—	—	—		
		繰越し等	—	—	—	—		
		計	—	—	—	3	—	
	執行額		—	—	—			
	執行率(%)		—	—	—			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	自立可能なパレスチナ国家建設のため制度づくり、キャパシティビルディング支援及び民間部門間の交流強化 パレスチナ国造りのための日パレスチナ協議開催		成果実績	回	—	—	—	1
			達成度	%	—	—	—	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	日パレスチナ協議に向けた準備も含めた出張数		活動実績 (当初見込み)	出張回数	—	—	—	— (2)
単位当たり コスト	1,011 (千円/1回)		算出根拠	平成23年度予算額/出張回数(見込み)				
平成23・24年度 予算内訳 (単位:千円)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	その他	3,126	—	対パレスチナ支援推進関連経費と統合				
	計	3,126	—					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	—	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	—	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	本件は将来のパレスチナ国家樹立に向け、自立可能なパレスチナ国家建設のため制度づくり、キャパシティビルディング支援及び民間部門間の交流強化を目標に適切な執行を図っていく。		
予算監視・効率化チームの所見			
		対パレスチナ支援推進関連経費と統合	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※平成22年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロッ
 クごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

平成23年行政事業レビューシート (外務省)									
事業名	イエメン・フレンズ・ワーキング・グループ会合			担当部局庁	中東アフリカ局			作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度開始 ・平成24年度より事業名を「イエメン情勢対策費」に変更			担当課室	中東第二課			課長 中込 正志	
会計区分	一般会計			施策名	中東地域外交に必要な経費				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第二・三項			関係する計画、通知等					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	イエメンにおいて新政権が発足した際には、G8及びGCCを中心にしたイエメン・フレンズによる支援が協議される見通しであり、そこでは今後のドナー間の調整を行うためのワーキング・グループが設置される可能性が高い。右WGに積極的に参加することで我が国の対イエメン支援の優先度や他ドナーとの協調の可能性等を探る。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	平成22年度には、「経済とガバナンス」WG及び「司法と法の支配」WGがそれぞれ2回ずつ開催され我が国も積極的に参加。我が国は水資源開発についての提言作成を主導し、海賊対策に関する提言作成に関与した。新政権発足後のイエメン・フレンズWGでも同様の対応が想定される。								
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
		補正予算	-	-	-	-			
		繰越し等	-	-	-	-			
		計	-	-	-	2	2		
	執行額		-	-	-				
	執行率(%)		-	-	-				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標				単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	対イエメン支援における我が国のプレゼンスを確保し、他ドナーとの協調の可能性を探るため、新政権発足後のイエメンにおいて行われるワーキング・グループに参加する。			成果実績	会合	-	-	-	1
				達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	出張回数			活動実績 (当初見込み)	回	-	-	-	— (1)
単位当たりコスト	2 (百万円/1回)			算出根拠	平成23年度予算額/出張回数(見込み)				
平成23年度 (単位:千円) 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由					
	その他	1,905	1,881						
	計	1,905	1,881						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	－	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	特段問題なしと認識。		
予算監視・効率化チームの所見			
		-	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※平成22年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
（「資金の流れ」
においてブロッ
クごとに最大の
金額が支出され
ている者につい
て記載する。費
目と使途の双方
で実情が分かる
ように記載）

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

平成23年行政事業レビューシート

(外務省)

事業名	日クウェート外交樹立50周年記念事業	担当部局庁	中東アフリカ局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度開始 ・平成23年度終了(予定)	担当課室	中東第二課	課長 中込 正志				
会計区分	一般会計	施策名	中東地域外交に必要な経費					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第二・三項	関係する計画、通知等						
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	2011年に日本とクウェートの外交関係樹立50周年の節目を迎えることを記念して、各種文化事業等の記念事業を行い、両国の友好関係及び両国国民の相互理解の一層の増進を図ること。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	2011年に、日本とクウェートの外交関係樹立50周年の節目を迎えることを記念して、外務省周年A事業「日クウェート国交樹立50周年」を開催する。本件実施に際しては、「日・クウェート友好関係及び両国国民の相互理解増進」、「クウェート国民に日本文化に親しみを持ってもらうための土台作り」、「日本文化・製品のクウェート人生活への浸透」の3点を重点目標とし、特に将来に渡り、クウェート国民が日本文化に親しむための土台作りを目指す。 両国友好関係及び両国国民の相互理解の一層の増進を図るため、記念レセプションの開催、広告・宣伝、準備等に必要。							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	-	-	-	2	-	
	執行額		-	-	-	-	-	
	執行率(%)		-	-	-	-	-	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	【目標】日本・クウェート外交関係樹立50周年を迎え両国の友好関係及び両国国民の相互理解の一層の増進を図る 【実績】記念事業の現地主要マスコミにおける報道数			件	-	-	-	75
			達成度	%	-	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	記念事業の実施件数			件	-	-	-	—
単位当たりコスト	0.1 (百万円/1件)		算出根拠	予算額 2百万 ÷ 事業数(見込み) 25件				
平成23・24年度予算内訳 (単位:千円)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	その他	1,742	-	廃止				
	計	1,742	-					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	－	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	特段、問題なしと認識。		
予算監視・効率化チームの所見			
	廃止		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※平成22年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロッ
 クごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					